

バーデンス シャンプー&トリートメント シリーズ

Badens Scalp Shampoo



バーデンス スカルプシャンプー

250mlボトル 2,000円(税抜) 500mlボトル 3,500円(税抜) 400ml詰め替え用 2,500円(税抜)

肌と髪へのやさしさを最優先に開発したシャンプーです。極低刺激洗浄剤・ラウレス-3酢酸アミノ酸(特許第5057337号)で、髪や頭皮をやさしく洗い上げます。優れた泡立ちと洗浄効果で、洗上がりもスッキリ。洗髪中もすすぎ時も、髪にキシミを与えません。(ファンシーフローラルブーケピンクの香り)

Badens Scalp Treatment



バーデンス スカルプトリートメント

180gチューブ 1,800円(税抜) 500gボトル 4,000円(税抜) 400g詰め替え用 2,900円(税抜)

トリートメントの風合いを向上させるカチオン界面活性剤の皮膚への刺激を緩和し、さらにセラミドポリマーとレシチンポリマーを配合することで、髪にうるおいとバリア機能をもたらします。まるで髪に化粧品を使用したようなしっとり感が持続します。(ファンシーフローラルブーケピンクの香り)

Badens Aroma Shampoo & Treatment



バーデンス アロマシャンプー (9種類の香り)

50mlミニボトル 500円(税抜) 500mlボトル 3,500円(税抜) 400ml詰め替え用 2,500円(税抜)

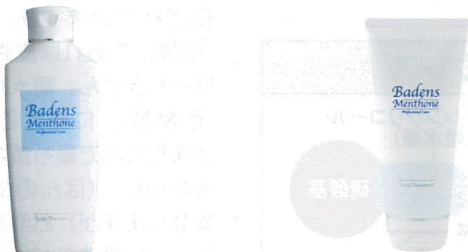
バーデンス アロマトリートメント (9種類の香り)

50gミニボトル 500円(税抜) 500gボトル 4,000円(税抜) 400g詰め替え用 2,900円(税抜)

低刺激性はそのままに、全9種類の香りを取り揃えました。その日の気分や体調に合わせて、好きな香りを選ぶことで、気分も体もリフレッシュすること間違いありません。

ハーブ リフレッシュ効果。怒りの感情を鎮める	ウッディ 集中力アップ、精神安定にも効果	トロピカル 精神疲労の回復に効果あり
プレミアムフラワー 心を明るくし、安眠効果やリラクゼーション効果	ファンシーフローラルブーケ 気持ちが穏やかになり、活力アップ効果も大	フレッシュエア リフレッシュ、ストレス解消や疲労回復
エレガントフラワー 活力アップや安眠、精神安定にも効果	ムスク 緊張や疲れを和らげ、リラクゼーション効果	アジアナフラワー 心を明るく高揚させ心地良い気分

Badens Menthone Shampoo & Treatment



バーデンス メントッシュampoo

250mlボトル 2,000円(税抜) 500mlボトル 3,500円(税抜) 400ml詰め替え用 2,500円(税抜)

バーデンス メントッシュトリートメント

180gチューブ 1,800円(税抜) 500gボトル 4,000円(税抜) 400g詰め替え用 2,900円(税抜)

天然ハッカ(ミント)油に含まれている抗炎症物質である「メントン」を配合し、頭皮への刺激を緩和するとともに、爽快なリフレッシュ感を与えます。爽快感を感じたい方に、ぜひお使いいただきたいシャンプーです。

モアコスメティックス 0120-540-640
HP http://www.morecosmetics.co.jp
E-mail info@morecosmetics.co.jp

毎日使うシャンプーだから
その中身と機能をしっかりと理解してほしい

シャンプーに関する特徴や成分などのさまざまなうわさ、疑問について、シャンプー洗浄剤で特許を取得しているモアコスメティックスが、すっきり解決します!

シャンプーで重要なのは
洗浄力と安全性のバランス

最近では、いろいろな化粧品会社がシャンプー成分を製品の特徴として広告するようになってきました。ノンシリコンに代表される、シャンプーの成分についてモアコスメティックスの亀田宗一社長に詳しく教えてもらいます。
——シャンプーの宣伝広告が変わってきたように感じますが。亀田社長(以下略)「多くの化粧品会社がシャンプーの中身について宣伝する傾向は非常に良いことだと思います。ただ、大きく宣伝する成分が「ノンシリコン・非石油系原料使用」などのイメージ先行であることは数十年前と何も変わっていません。成分ひとつひとつにこだわることは重要ですが、問題は何をベースに原料を選択するかです。モアコスメティックスのシャンプーで最も重点を置いている点は安全性です。髪や頭皮を「洗う、ことは、保湿、や保護、と比べて非常にデリケートなことです。質の悪いシャンプーは、

髪や肌の細胞を傷つけてしまい、肌荒れを起こす、アレルギーを誘発するといった危険性もあります。そのことを、消費者もしっかりと認識したうえで商品選択をする必要があると思います」
——シャンプー選びのポイントとなる点は何ですか?
「シャンプーに必要な機能の一番目は『しっかりと泡立ち汚れを洗い流す』があげられます。日常生活の中で、頭皮や髪の皮脂、ほこりや微生物、化粧品などの汚れを放置してはカユミやフケの原因となってしまうため、しっかりとした洗浄効果があることはシャンプーの必要条件といえます。
次に、髪に使用することを考えると『すすぎやすく、髪がからまない』『洗浄後に自然なツヤと適度な柔軟性を与える』といった感触面も大切です。近年では『環境性に優れる』といったことも必要な機能といえます。さらに『人体に対して刺激が少ない』ことは当たり前で、最も重要な機能でもあります。これら『洗浄力』『安全性』『感触面』『環境性』の4点がシャンプー

を比べる際の大きなポイントといえます。特に、『洗浄力』と『安全性』は相反する機能でもあるため、そのバランスが重要です」

シャンプー洗浄剤の
硫酸系・アミノ酸系は危険

——シャンプーに含まれる成分で最も気をつけることは?
「シャンプーの機能を左右する成分は、全成分表示では2番目(水の次)に記載されている洗浄剤です。この洗浄剤は、泡立つ界面活性剤のことで、これが何であるかでシャンプーの安全性が決まるといっても過言ではありません。強すぎる洗浄剤は、必要な皮脂まで洗浄し、さらには細胞や髪のタンパク質を死滅(変性)させてしまうからです。具体的には、成分名に『硫酸』や『スルホン酸』と表示されているシャンプーは危険な洗浄剤を配合しているといえます。これらは、ヤシ油などに劇物の硫酸を合成した洗浄剤で、肌荒れや髪の毛のタンパク質を変性させることが知られているにもかかわらず、安価で高い起泡性をもっているため、現在も広く使用されています。このような衣類用洗剤にも使用されている刺激の強い硫酸系洗浄剤を使用し

ていれば、髪だけでなく顔や体にも悪影響を与えることは明白です。
また、安全性が高いと説明する化粧品会社が多いアミノ酸系の洗浄剤も、実は危険です。アミノ酸系洗浄剤は、単体では泡立ちが弱く、シャンプーに必要な洗浄力をクリアすることが難しいため、硫酸系洗浄剤とミックスしたり、アミノ酸系洗浄剤を大量に使用したりして洗浄力を上げています。ところが、アミノ酸は生物を構成するタンパク質の材料ですから、髪や頭皮などに残りやすい性質があり、大量のアミノ酸系洗浄剤の使用は、アレルギー発症のリスクと隣り合わせなのです」

石けん・お酢ベースの
安全な洗浄剤

「一方で、安全な洗浄剤の代表は4000年以上も歴史をもった石けんです。また、それと類似した構造であるお酢(酢酸)系の洗浄剤はシャンプーに必要な『洗浄力』『安全性』『感触面』『環境性』のすべてのポイントを満たした非常に優秀な洗浄剤といえます」
——次ページより洗浄剤の特徴を詳しく見ていきましょう。

シャンプーに必要な機能

シャンプー選びの4大ポイント

	洗浄力	安全性	感触面	環境性
硫酸・スルホン酸系シャンプー	○	×	○	×
石けん系シャンプー	○	○	×	○
アミノ酸系シャンプー	×	△	○	×
お酢系シャンプー	○	○	○	○

意外と知られていない化粧品の全成分表記のルールとシャンプーに使われている洗浄剤の特徴を徹底比較

洗浄剤の特徴を読み取りシャンプー選びを

シャンプーをはじめ化粧品の裏には全成分表示といって、その化粧品に配合されている成分がすべて記載されています。しかし、関心をもってそれらの成分を確認しても、たくさんの成分が書かれていて、どれが何で、何の目的で配合されているかはなかなかわかりません。

ここでは、シャンプー（化粧品）の全成分表示の表示法やシャンプー選びで重要となる洗浄剤の違いを紹介します。

化粧品の全成分表示は、平成12年の厚生労働省告示によって義務化がスタートしました。

全成分表示のルールとしては、**①原則として配合している成分すべてを表記する（原料に含まれるごく微量の防腐剤などは表示する義務はない）。**
②記載する成分名の順番は、製品中で配合量の多い順に記載する。ただし、1%以下の成分及び着色剤については互いに順不同でよい。

この2点です。全成分をしっかり

りと確認される方でも、ルール②の1%以下の特例が抜けて、化粧品の全成分はすべて多い順に表示されていると勘違いされている方が多いようです。

1ページ目でも触れましたが、シャンプーの成分で最も重要な成分は洗浄剤です。シャンプーの場合、大抵は水の次に表示されている成分が洗浄剤ですが、最近発売されているシャンプーの多くは3〜4種類の洗浄剤がブレンドされているため、全成分の上位7成分程度を注意深くチェックする必要があります。

試みに、ドラッグストアなどで販売されているシャンプーの全成分を見て下さい。市販されている大半のシャンプーで「ラウレス硫酸Na」という成分が含まれていることが確認できます。これは硫酸系洗浄剤の

全成分表示の一例

成分:水、ラウレス硫酸Na、ジステアリン酸グリコール、コカミドプロピルベタイン、塩化Na、コカミドMEA、ヒアルロン酸ヒドロキシプロピルトリモニウム、加水分解ヒアルロン酸、スクワラン、酢酸トコフェロール、アルギニン、ジメチコン、ジメチルシロキサン、アモニウムクロリアセテート、ヒドロキシプロピルトリモニウムクロリド、セトリモニウムクロリド、キサンタンガム、PPG-7、クエン酸、カルボマー、ステアリン酸、ラウリン酸、ラウレス-4、ラウレス-2S、ポリクサマー-407、トリタセ-12、PEG-4、EDTA-2Na、TEA、水酸化Na、安息香酸Na、メチルイソシアソリジン、メチルクロロインチアソリジン、香料、カラメル

代表的な成分で、洗浄力は高いものの、髪・頭皮への刺激が強く、タンパク変性を起こすため、毎日使うには適しません。『スルホン酸』と表記されている洗浄剤も構造的には硫酸系洗浄剤の部類に入り、特徴も同じです。

よく、パーマやカラーリングが髪を傷めるといわれますが、実はそれは大きな誤解です。硫酸やスルホン酸で傷んだ髪に、パーマ液やカラーリング剤を重ねることが問題なのです。

肌へのやさしさ&安全性第一位はお酢系シャンプー

低刺激シャンプーとして販売されている洗浄剤としては、『石けん系』や『アミノ酸系』などが主流ですが、どちらも大きな問題を抱えています。

石けん系は、頭皮への刺激はありませんが、シャンプーとして使用すると、すすぎ時に石けんカスが発生し、髪の毛の指通りを妨げ、摩擦によって髪の毛を傷めてしまうという危険性があります。また、石けんシャンプーは製品自体もアルカリ性のため、カラーの色持ちもよくありません。

アミノ酸系は、単体では泡立ち、洗浄力の弱さが最もネックになります。さらにはアミノ酸の種類によって、髪や肌にも刺激があることがモアコスメティックスの試験でも確認されています。1ページでも、紹介したように、アミノ酸は人体の構成成分なので肌に残留しやすく、カユミを引き起こしたり、アレルギーになることもあるのです。

一方、モアコスメティックスが特許を取得している『お酢系』洗浄剤は、下の比較表からもわかるように、豊かな泡立ち、高い洗浄力、皮膚にも髪にも低刺激、カラーリングの色持ちもよいと、すべての項目で唯一の◎評価。洗浄力と刺激のバランスが難しいシャンプーでも、お酢系洗浄剤なら、髪の毛、頭皮を傷めずにしっかりと汚れを落とせることは一目瞭然です。

しかも、分解性が高くCO₂を23%削減することが認められている、環境にやさしいシャンプーでもあります。

ぜひ、表示成分を読み取り、肌に、髪にやさしいシャンプー選びをしてください。

シャンプーの洗浄剤の特徴比較

	硫酸・スルホン酸系 シャンプー	石けん系 シャンプー	アミノ酸系シャンプー		お酢系 シャンプー
			グルタミン酸系	タウリン系	
泡立ち					
洗浄力					
髪・頭皮への やさしさ					
カラーの色持ち					
代表的な成分例*	ラウレス硫酸塩 オレフィン(C14-16)スルホン酸塩	石けん素地 ヤン脂肪酸塩	ココイルグルタミン酸塩	ココイルメチルタウリン塩	ラウレス-3酢酸塩

*成分例で表記している「塩」は、「ナトリウム」などのカウンターカチオンの総称を表しています。

シャンプーのこともっと知りたいQ&A

シャンプー成分の素朴な疑問の解決コーナー



Q. シリコンが配合されているシャンプーは問題?

A. シリコンはとても安全な成分ですが、シャンプーに入れるのは危険です。

シャンプーの宣伝で、「ノンシリコンシャンプー」というキャッチフレーズをよく聞くようになりましたが、そもそもシリコンがどういった成分で、何の目的で配合されているのかを、きちんと伝えるような宣伝は見当たりません。

髪がギシギシしたり、原料臭の強いシャンプーで髪を洗いたいとは誰も思わないでしょう。そのため、シャンプーの使用感を向上させる工夫は古くから試みられ、非常に多くの成分が配合されるようになりました。

現在では、シャンプーに含まれている「水」と「洗浄剤」以外のすべての成分は「感触」を改善する目的で配合されている、環境にやさしいシャンプーでもあります。

洗浄後に髪に適度なツヤと柔

軟性をもたせるための少量の油分や、コンディショニング効果をもったカチオン化セルロース（全成分表示ではポリクオタニウム）が代表として挙げられます。また、乾燥を防ぐために保湿剤としてグリセリンやBG、植物エキスなどが配合されています。さらに、香料もシャンプーにはなくてはならない成分になっています。しかし、これらの成分によってシャンプーの洗浄機能が失われては意味がありません。過度の油分や保湿剤は、泡立ちを抑制したり、洗い流しの際に洗浄剤が髪に残留する危険性をはらんでいます。

特に80年代頃よりヘアケア商品に配合されるようになったシリコン類は、高いコーティング機能をもった成分のため、シ

ャンプーに配合すると、本来洗い流すはずの洗浄剤が髪に留まってしまう原因となるため、シャンプーにシリコンを配合することは安全面、機能面のどちらでも矛盾があります。しかし、手軽にシャンプーの感触を向上する目的から、ドラッグストアなどで販売されているシャンプーの多くでシリコンが配合されています。しかし、これらの成分によってシャンプーの洗浄機能が失われては意味がありません。過度の油分や保湿剤は、泡立ちを抑制したり、洗い流しの際に洗浄剤が髪に残留する危険性をはらんでいます。

ただ、ひとつ勘違いしてはいけないことは、シリコンが直接の刺激となることはないという点です。ノンシリコンなどと大きく宣伝されているため、「シリコン=悪」というイメージが

もたれ始めていますが、決してそうではありません。シリコン類は高いコーティング機能（機能性）に加え、物性的にも安定性が高く、肌への刺激の少ない非常に優れた成分なのです。そのため、シリコンはトリートメントやセット剤などの髪に使用する製品だけでなく、クリームやUVケア製品などの肌に使用する化粧品でも多く使用されているのが実情です。

モアコスメティックスのシャンプーは、ノンシリコンシャンプーです。でも、モアコスメティックスはシリコンを否定してはいません。安全性の検討をし、肌への刺激がないシリコンは、適した製品にはしっかりと配合し、その機能をしっかりと活用しています。

Q. 洗浄剤に書かれているラウリルとラウレスってどういう意味?

A. ラウリルとラウレスを比べるとラウレスのほうがより低刺激です。ただ、刺激の強さは親水基で決まります。

シャンプーの成分表示から洗浄剤の成分名を見ていくと、硫酸系やアミノ酸系、お酢系にかかわらず、「ラウリル」や「ラウレス」といった表記が多いことがわかります。最近では「ノンラウレス」という宣伝も目にしますが、ラウレスとはどんな意味かの説明はほとんど聞きま

せん。ラウリルとラウレスは非常によく似た名前ですが、それらの構造の違いから書き分けがされています（下図参照）。ラウリルは棒状の親油基に親水基が直接的に結合しているのに対し、ラウレスは棒状の親油基と親水基の間に「別の親水基

（ポリエチレングリコール）」が付いた化合物です。

この構造の違いによって、一般的にラウレスはラウリルと比べて刺激性が低くなります。この特徴から、ラウリル硫酸Naは「危険。だがラウレス硫酸Naは「安全、という宣伝を一言前までは多くの化粧品メーカ



ーがしていました。しかし、洗浄剤の刺激性は「親水基が何であるか」が重要であるとモアコスメティックスは考えています。ラウレスは確かにラウリルと比べると刺激緩和されていますが、親水基が「硫酸」であれば皮膚刺激は避けられません。親水基を「お酢（酢酸基）」に変えることが刺激緩和の面で最も重要なのです。ちなみに、（ほんの少し構造は異なりますが）お酢系洗浄剤は、石けんの構造をベースに考えると、親油基をラウリルから、ラウレスにした成分といえます。

つまり、パーデンスに使用しているお酢系洗浄剤が石けん以上に刺激性が低いことは、構造からも示されているのです。

ラウリルとラウレスの違いによる各洗浄剤の構造の違い

	ラウリル	ラウレス
硫酸系洗浄剤	<p>成分名:ラウリル硫酸塩</p>	<p>成分名:ラウレス硫酸塩</p>
石けん・お酢系洗浄剤	<p>成分名:ラウリン酸塩(石けん)</p>	<p>成分名:ラウレス酢酸系(お酢系洗浄剤)</p>